

関西大学における国際教育カリキュラム促進のためのFD/PDを実施

日時：7月20日(月)～24日(金)
場所：関西大学 千里山キャンパス

Knight(1994)では、教育の国際化とは、教育機関の様々な機能、研究、そして教育において国際的な要素、または異文化を意識づけた側面が加味される過程であると定義されている。大学教育の根幹を成すものは、教育カリキュラムである。そのカリキュラムを国際化しなければ、真に大学が世界的な通用性を目指すことはできない。しかし現場において、このプロセスは容易なものではない。平成27年度における国際教育のためのFD/PDとして、本学では7月末の5日間(7月20日～24日)の集中トレーニングワークショップを開催した。このワークショップは、CLIL(クリル/Content Language Integrated Learning 内容言語統合学習)と言う、専門教科を英語で学び教科知識、語学力、思考力、コミュニケーション力を統合して育成する教授法である。CLILの手法を通して、効率的かつ深いレベルで専門内容を修得し、また英語を学習手段として使うことで、4技能はもちろんのこと、批判的思考力やコミュニケーションにおける実践力を伸ばすことができるため、一般的な学習スキルの向上も意図されている。CLILは、外国語教育の様々な教育原理・技法を有機的に統合することで、高品質な授業の実現を目指す。CLILの基本原則は言語教育に基づくが、日本国内の事情、特に昨今の高等教育機関においては専門科目を英語で教授する必要性が高まっており、多くのケースにおいて日本人学生と国際学生が混合した履修者を対象とする教室が対象となる。多言語支援や、日本語と英語をどれぐらいの比率で、またはどのようなチャンネルで応用しながら学習者の最大限の学びを引き出せるのかなど、多くを思案しなくてはならない。これらの事情にあっ

たEMI(English Mediated Instruction)を展開するというのが、本学においても現実的な方向性だろう。UQ(クイーンズランド大学)によるCLILワークショップは、合計16名の関西大学の参加者らを対象に行われた。まず第一日目にCLILとは何かを理解することから始まり、二日目以降は英語を用いた授業ではありながら、学習者の内容理解のプロセスを効率よく支援する様々なメソッドや教授の工夫などについて実体験しながら進められた。本ワークショップで、留学生と日本人学生の混在する多様な教室事情にも対応できる教授法を具体的に実体験することができた。参加した教員達からも希望があったが、この機会を皮切りに、次年度についてもこのような企画をより多く提供していく予定である。

(国際部 池田佳子)



CLILワークショップの様子

コラボレーションコモンズだより

凜風館1階に開設している「コラボレーションコモンズ」では、誰でも気軽に本を読んでもらえるようにと、「LinCom(リンコム)ライブラリー」を設置しています。

ライブラリーはエリアの特色に合わせて大きく2か所に分かれています。「コンシェルジュカウンター前の本棚」には、新着図書・特集本・小説・洋書・英語コミック・写真集(カウンタースペース)を、「ICTエリア(デスクトップPC2台設置)前の本棚」には、パソコンスキルに関する本・レポート作成についての本・学術図書・雑誌等を合わせて約200冊配架し

ています!

「コラボレーションコモンズ」内であれば、自由に手にとって閲覧できるので、ソファでリラックスして読んでいる学生さんや友達と一緒に見ながら談笑している学生さんも多くいます。

配架する図書については、随時募集していますので、「こういった本があればいいなあ!」「最近話題になったあの作家の小説が気になる」などあれば、コンシェルジュカウンターに設置している申し込み用紙やインフォメーションシステムの「申請・アンケート」からどんどん申し込ん



てください。

学生はもちろん、先生方からの応募や本の寄贈なども大歓迎ですので、ぜひともよろしくお願いたします!

(柴田晴美、嶋本美幸、中田裕己、岩崎千晶)